

全国中国語教育協議会

ニュースレター

第24号

2002年2月10日発行

3月27日(水)に第3回全国大会を開催

中国語教育学会への移行に向けて会員総会

会則により、隔年開催の全国大会を来る3月27日(水)に開催することになった。実践報告、講演のほか、会員総会が予定されている。これまでの会報でお知らせしてきたように、今回の会員総会では本会の中国語教育学会への移行が議せられる。この会報第24号にご案内を掲載して正式のご通知に代えることとする。出席申し込みハガキを同封しているので3月3日までに出席のお返事をご投函いただき、当日は多数のご参加を賜りたい。

全国中国語教育協議会 第3回全国大会(会員総会・春季報告会)のご案内

日時：2002年3月27日(水)午前10時30分～午後5時

会場：日本大学文理学部百周年記念館2階 国際会議場

(所在地：東京都世田谷区桜上水3-25-40、新宿駅から京王線にて約10分、
下高井戸または桜上水下車、第4面に案内図あり)

日程：10:00 受付開始(参加費¥1,000、懇親会費¥3,000、寄付大歓迎)

10:30 開会式

10:35～12:15 実践報告 大崎雄二(法政大学)

丸尾誠(名古屋大学) 敬称略(以下同じ)

12:15～13:30 休憩(昼食) ※昼食は各自お願いします。また、この間に理事会を開催。

13:30～14:00 講演「中国語教育雑感」依藤醇(東京外国語大学)

14:10～15:10 会員総会

15:30～17:00 懇親会(文理学部構内 チェリー)

[注]会員総会にて中国語教育学会への移行が提案審議され、決定に至った場合は、中国語教育学会設立大会に切り替えて議事を進めます。

おことわり

上記大会での報告会レジュメ、総会議事等を今号の会報に掲載する旨の予告をしておりましたが、手配が遅れたため、正式通知とともにご覧いただくことができませんでした。大会当日に会場での配布となりますが、若干の関連記事を第3面に掲載いたしました。

事務局のご案内

156-8550 東京都世田谷区桜上水3-25-40

日本大学文理学部中文研究室内

全国中国語教育協議会

郵便振替口座 00120-0-364168

なお、お問い合わせ・ご連絡等はお手数でも郵便でお願いいたします。



このレポートでは中国語の教育や研究に関する学会・研究会をはじめ、施設・機関などをとりあげているが、本号は前号のつづきとして、国立台湾師範大学の国語教学中心をご紹介します。このセンターは台湾における、いわば北京語言学院に相当するものといえよう。

台北駅の南側は繁華街であると同時に予備校街としても知られている。さらに歩みを進めるとかつて台湾総督府であった総統府の建物をはじめ官公庁の一角に達するが、もう少し頑張れば車に乗らなくても30分強で師範大学に着くことができる。和平東路の通りを挟んでキャンパスは道路の両側に二分されている。市街地だけに敷地は決して広くないが、整然と効率的に建物が配置されている。今後、さらに18階のビルも作るそうだ。校門脇の図書館につづいて威容をほこる10階建ての博愛楼を目指す国語教学中心と、前回ご紹介した華語文教学研究所有入っている。この博愛楼の5階から10階に、センターの諸施設がある。

日本ではふつう師範大学の「国語中心」と略称されているが、英文ではThe Center of Chinese Language and Culture(Mandarin Training Center)を略してCCLC(MTC)と呼ぶ。1956年に設立され、台湾の各大学にある同種のセンターのなかで、名実ともに群を抜いている。正規コースは1年を4期に分け、9月、12月、3月、6月にそれぞれ学期が改まる3カ月ずつの課程になっている。7～8月には夏期コースがある。3カ月の学費は日本円換算で約7万円である(夏期は5万円弱)。諸雑費を入れても3カ月で8万円弱とのこと。ちなみに1クラスの定員は通常7～10名という。人数に見合った小部屋の並ぶなかに視聴覚、コンピュータ等の専用教室や図書館等も整っていた。

各学期とも約1千名の在籍者がいて、外国人に対する中国語教育の資格試験をパスした百名以上の教師が授業を担当している。現在、60カ国以上から留学生を受け入れているという。かつて、西側諸国から大陸に留学することが困難だった時期にこのセンターで中国語を学んだ者には、いま中国語の世界で活躍する人も多く、とくに日本より欧米に顕著である。現在でも教授法や言語訓練の面から大陸より台湾を選ぶ者がある。ちなみに台北郊外の陽明山にあるアメリカ國務省系統の美国在台学校を見学したことがあるが、すぐれた現地教員を擁しているという印象であった。

大陸でも留学生の学外居住がゆるやかになって来たようだが、台湾に語学留学するメリットのひとつは市中に住むことができる点だ。一般市民の生活にとけこみ、通学の際にも生きた学習が可能である。簡体字や発音表記については台湾留学の問題点ともなるが、国語中心では表音に注音符號だけでなく、エール大学方式のローマ字や、ピンイン・ローマ字も用いるという。

毎日の授業は朝8時10分から110分ずつ6コマの編成で、語学は週5日間、毎日2コマとなっている。当然、中国文化の領域でも種々の授業が用意されている。とくに、語学以外の文化・芸術や、見学・旅行を組みこんだ語言文化研習班や文化芸術研習班といった新しいコースが設けられ、それぞれ2週～5週のカリキュラムが用意されている。ただし、10人以上のグループが対象で、個人は受け付けてくれないことになっている。このような特別カリキュラムは海外の提携大学から語学研修を受け入れる時にも採用されている。現在のセンター主任である羅青氏は美術系教授で、展示室には自らの書や収蔵品が見られた。このようなカリキュラムもそういったことからできたのかも知れない。見学した際に、同主任からはその方面の説明の多かった印象が強い(輿水)。

【資料・全国中国語教育協議会・本会の設立趣旨】

(96年9月、準備会発足案内所収)中国語教育の現場では、教育課程・教育内容・教材開発・教師の養成等々、検討を待たれている問題が山積しています。もちろん、20年前、30年前に比べれば、内外の中国語研究の発展はめざましく、その成果を吸収して中国語教育の水準は着実に向上しています。しかし、その大半は研究者・教育者個人の人々の努力によるもので、学会としても学界としても、中国語教育の諸問題を正面から取り上げる機会が、十分に得られているとはいえません。

高校の中国語教育では、ガイドラインの作成や教師の養成が急務とされ取り組みが始まっています。大学では関心は強いものの、具体的な動きは目立ちません。これではせっかく中国語の教室に来てくれた学習者の失望を買うばかりか、他の外国語と肩を並べることも難しくなります。一方、中国語教育の周辺では、センター・テスト外国語科目への導入、検定試験、HSK(漢語水平考試)、各種通信教育等々、教育者にとって対応を迫られる問題が続出しています。現在の日本中国語学会は従来から学術研究の方面に力を注いでいますので、にわかに教育の問題に集中することも困難です。当然のこととして、中国語教育学会の設立を望む声も聞かれるのですが、現在の学会を分断せず、共存をはかり、さらに現在の学会では高等学校や専門学校からの参加に限られることを考慮し、このたび全国の中国語教育従事者を網羅した「全国中国語教育協議会」の発足を願い、準備会を開催することにいたしました。

(97年9月、協議会発足案内所収)このたび全国の中国語教育に従事する者が結集し、全国中国語教育協議会を設立しました。本会は一言で申せば欧米諸国に見られる中国語教師協会的な組織であり、相互の経験交流を通じて自らの向上を図るとともに、わが国における中国語教育の普及と発展を目指すことを目的としています。すでに昨年秋の関西大学における準備会全国大会以来、準備会としての活動をささやかながら続けてまいりました。本会は、中国語教員の研修会・交流会および研究会の開催、会報・資料集・論文集の刊行、中国語教育に関する情報の収集と提供等を主たる事業とする予定で、この夏すでに第1回教員セミナーを4日間にわたって開催し、北京大学の陸俊明教授、馬真教授、北京言語文化大学の李明教授、東京外国語大学の孫玄齡教授らの講義と朗読指導など、参加者にも好評でした。今後、このような研修交流活動と、会員への委嘱研究を中心に中国語の教育課程や教育内容にわたる研究活動に力を注ぎます。

本会は設立の趣旨からして、中国語教育に従事する個人を会員の資格としています。大学、高校、専門学校、講習会、私塾、個人教授を問いません。実地に中国語教育に携わっている方(大学院生で中国語講師をしている方々を含む)であれば、入会を歓迎します。

(01年10月、第22号所収)本協議会は準備会発足から満5年が経過し、セミナーを中心とする活動を展開して来たが、事務局では会の一層の発展をはかるために、準備会段階から声のあがっていた中国語教育学会への移行が望ましいと考えている。会員規模と活動項目を拡大し、全会員に対し、さらに中国語教育界に対し意義ある存在となるためにも移行は極めて自然なことである。これまで会務処理能力の関係から新たな会員を迎えるPRを抑制し、一部会員の参加にとどまる活動に終始した反省をふまえ、事務局レベルでは平成14年度からセミナー改革(自由参加の研究発表会と連続講座開催の二本立てとし、事前申し込み等の廃止または簡素化を図る)をはじめ、新たな展開を検討中だが、学会名義であれば大学をはじめ社会的に広く認知されることが予想される。さらに、大学設置基準の改正により、大学教員の場合、教科書・教材の作成、教学研究や実践報告など、教育学会における会員の活動がそのまま教育業績にもなろう。この件を3月の会員総会の議事とし、その結果ご支持がいただければ、上記会場で中国語教育学会設立大会に切り替えることになる。

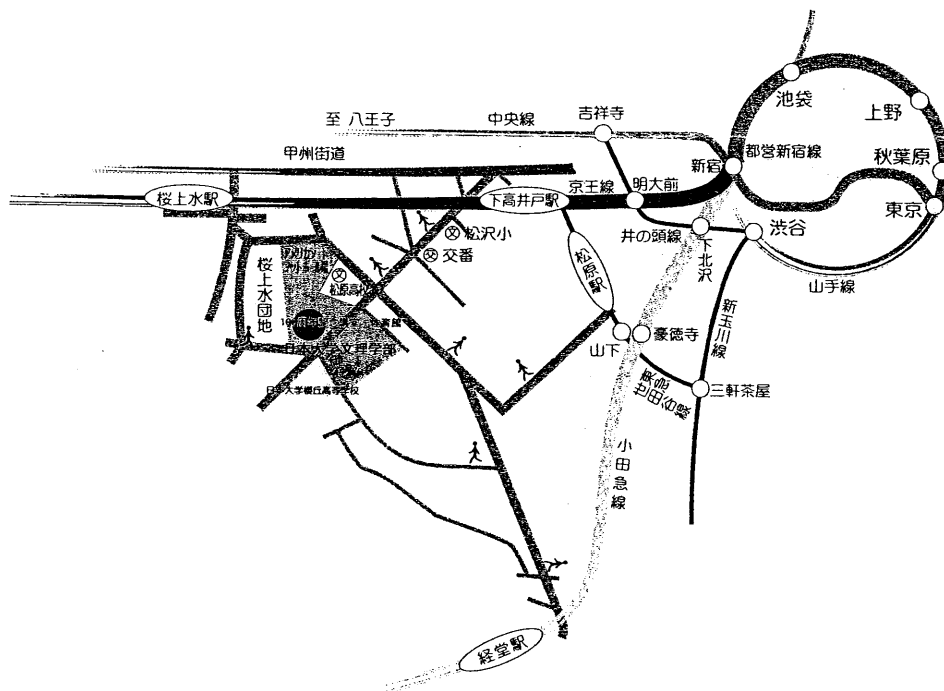
☆今回の第3回大会では、教室における実践報告として、第二外国語の中国語を担当されるお二人の先生に、授業での問題点や対応、工夫などについてお話をお願いしました。また、講演では中国語教育のかかえる諸問題と、これからの展望についてお話しくださるようお願いしました。

第3回全国大会 会場への交通案内

JR新宿駅から京王線で約10分、下高井戸(しもたかいど)下車[各停と快速のみ停車]
 または桜上水(さくらじょうすい)下車[各停、快速、急行も停車]、どちらも運賃¥150
 下高井戸下車の場合、改札口を出て、進行方向左手の階段を降りたら、踏切を背にして
 歩きだす、左手にマクドナルド、右手に文具店を見て前方に歩きだす。

約10分で左手に日本大学文理学部、右手に都立松原高校が見えてくる。その先の左手
 に学部正門があるが、今回の会場は道路を挟んで正門の反対側にある「百周年記念館」
 (講堂・体育館)2階にある国際会議場。受付は百周年記念館入り口のホール。

案内図



全国中国語教育協議会 会報・研究ファイル 原稿募集

- ☆ 会報掲載原稿 ①教室での工夫・授業のアイデア ②教学実践記録(教案等も含む)
 ③国内外の中国語教育・研究関係学会・研究会・シンポジウム紹介 ④私の読んだ本
 (外国語教育の分野で、紹介・書評とも) ⑤その他、会報にふさわしい内容の原稿。
 1編1千字以内。ワープロ使用を原則とし、手書きの場合は400字詰め原稿用紙使用。
 締切りは特に設けない。採否は事務局一任とし、随時掲載。原稿は返却しません。
- ☆ 《研究ファイル》原稿 会報(ニューズレター)とは別に、とじこみ式の「研究ファイル」を不定期に刊行します。中国語教育に関する主張や論説をお寄せください。字数は400字詰め用紙換算20~40枚程度。形式は既刊のファイルをご参照ください。理事数名の審査で採否を決めます。原稿はワープロに限り、紙に印字したものにフロッピーを必ず添付。ファイルの形式はWindowsで作成されたものとし(Mackintoshは不可)、できればMicrosoft Word文書ファイルが望ましい。中国語はGB、またはBIG5で入力されたもののほか、「Chinese Writer」「Nihao Win」「cWnn」「中文起稿」等も受け付けます。

◆◆活動ニュース◆◆02年度セミナーは、全国大会の会員総会における審議の結果を見てから開催するので、4月はお休みとし5月から始める予定◆◆次号会報は4月初め発行の予定◆◆